



DIGITAL HEARTS HLDGS.



2025年11月6日

各 位

会 社 名 株式会社デジタルハーツホールディングス
代表者名 代表取締役社長 CEO 筑 紫 敏 矢
(コード番号：3676 東証プライム)
問合せ先 執行役員 CFO 伊 丹 英 人
(TEL：03-3373-0081)

当社の連結子会社である株式会社 AGEST の会社説明資料に関するお知らせ

当社の連結子会社であり、現在、株式分配型スピンオフ及び上場の準備を行っている株式会社 AGEST が、独立した企業グループとしての会社説明資料を公開いたしましたので、お知らせいたします。

■本資料に関するお問い合わせ

株式会社 AGEST IR 広報室

電話番号：03-6821-1753(平日 10:00～18:00) Email：ml-ir@agest.co.jp

以 上



AGEST

**SAVE the
DIGITAL WORLD**

株式会社AGEST 会社説明資料

株式会社AGEST

これからのAGEST

- AIオートメーションツール「**TFACT**」と純国産の「**SBOM管理ツール**」を通じて、「**グローバルマーケット**」へ日本の品質技術、セキュリティサービスを提供。Missionである「**SAVE the DIGITAL WORLD**」の実現へ

Global Quality & Security Company with AI



革新的なAIオートメーション
ツールTFACT(ティファクト)

テスト工程の革新



純国産SBOM管理ツールの
国内、海外展開

サイバーセキュリティの
トップカンパニーへ



海外グループ子会社を
起点にしたグローバル展開

日本の品質技術、セキュリティ
サービスにより世界のAGESTへ

2026~

2024

2023

2022

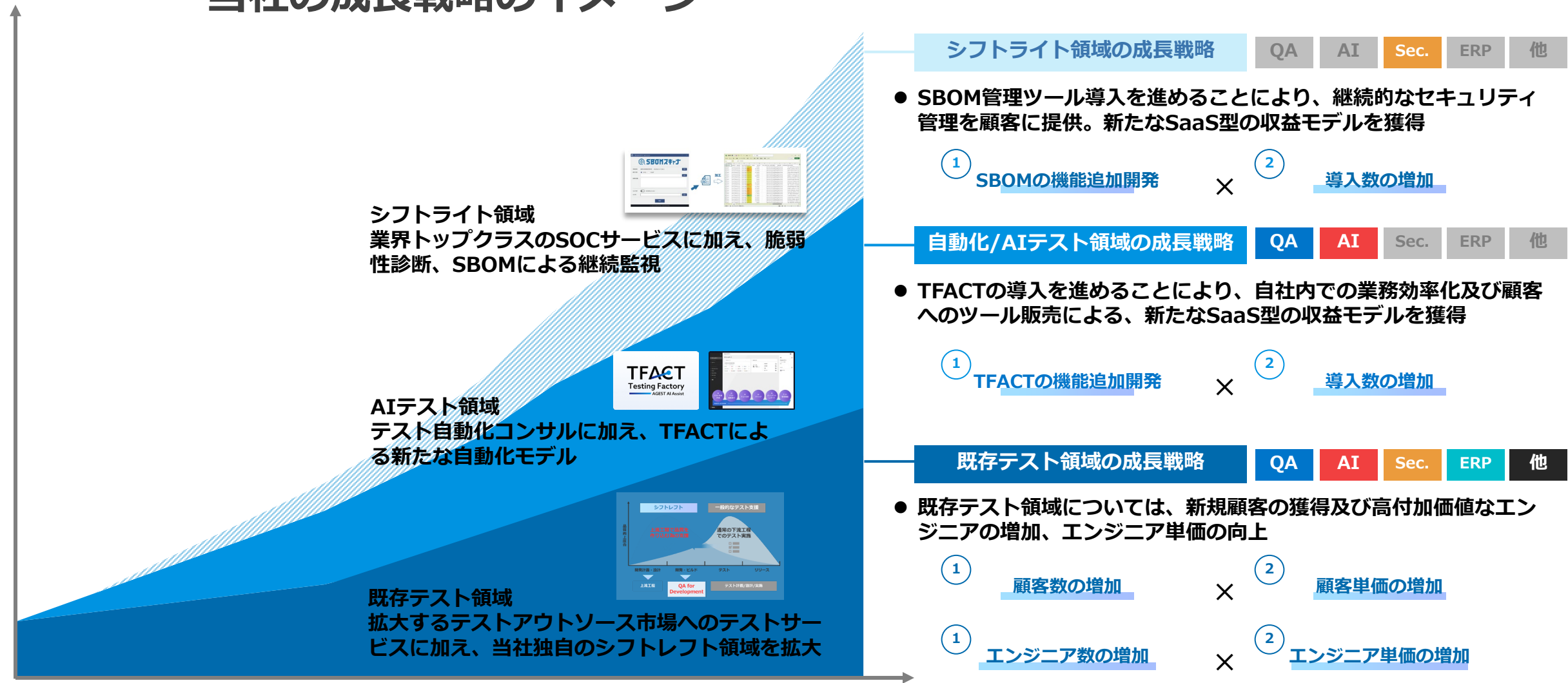
2021

2017

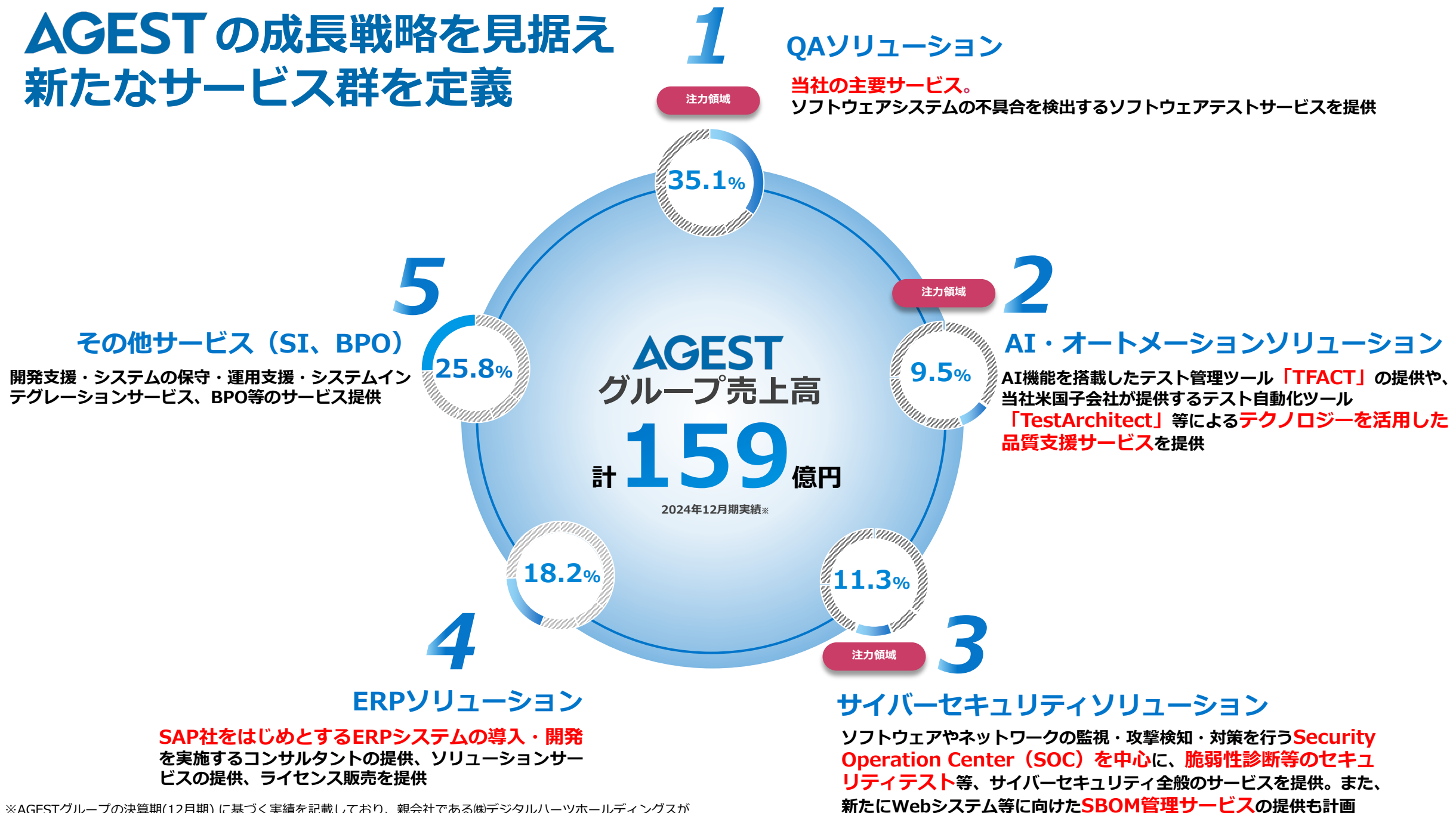
2017

□ 今後は、既存テスト領域、TFACTによる自動化・AIテスト領域、シフトライト領域それぞれに注力

当社の成長戦略のイメージ



AGESTの成長戦略を見据え 新たなサービス群を定義



※AGESTグループの決算期(12月期)に基づく実績を記載しており、親会社である㈱デジタルハーツホールディングスが
開示している“AGESTグループ事業”の実績と差異が生じております。

2025年度第3四半期 AGESTグループ連結損益計算書

- 国内におけるテストの需要増加を背景に、**主力のQA、AI・オートメーションは順調に拡大**
- 海外における事業再編は目途が立ち、第3四半期から拡大傾向ではあるものの前期比で減収
- 主力事業の拡大と収益率の低いその他事業の減少、海外の事業の改善により**大幅増益**を達成

(百万円)	24/12期通期	24/12期 3Q	25/12期 3Q	増減額	前期比
売上高	15,959	11,916	12,020	104	100.9%
売上原価	11,773	8,848	8,703	△145	98.4%
原価率	73.8%	74.3%	72.4%	—	-1.9ポイント
売上総利益	4,185	3,068	3,317	249	108.1%
販管費	3,579	2,735	2,735	0	100.0%
営業利益	606	332	581	249	175.1%
営業利益率	3.8%	2.8%	4.8%	—	2.1ポイント
経常利益	560	257	592	334	229.7%
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	385	159	408	249	256.7%
EBITDA	948	595	889	294	149.5%

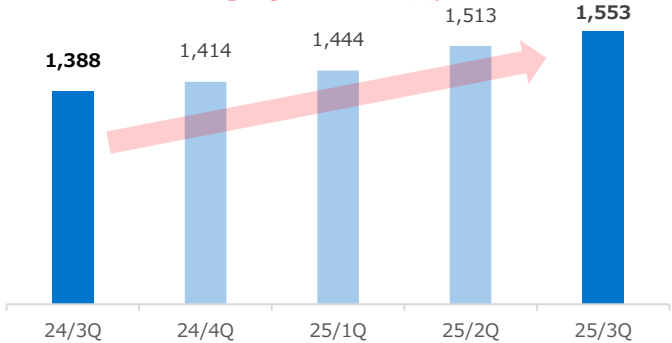
サービス群別の売上推移

1

QAソリューション売上

(単位：百万円)

3Q前年比+12%
主力事業の順調成長

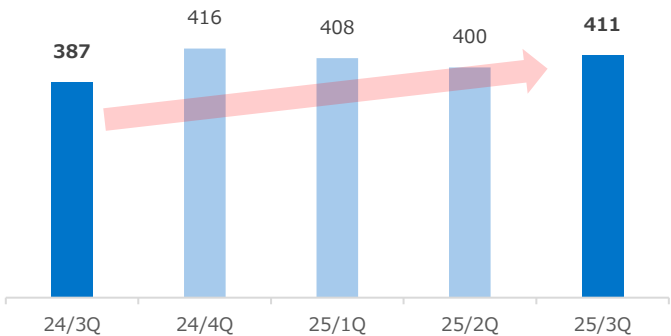


2

AI・オートメーションソリューション売上

(単位：百万円)

3Q前年比+6%
テスト自動化の拡大

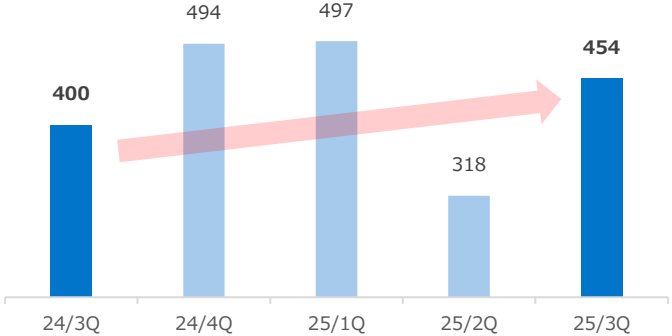


3

サイバーセキュリティソリューション売上

(単位：百万円)

3Q前年比+14%
一部SOCライセンスの値上げ影響

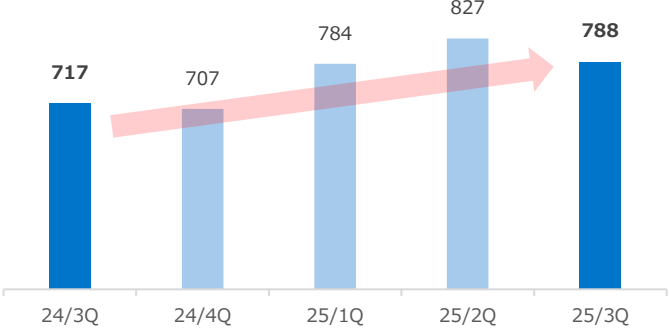


4

ERPソリューション売上

(単位：百万円)

3Q前年比+10%
国内外のERP事業成長

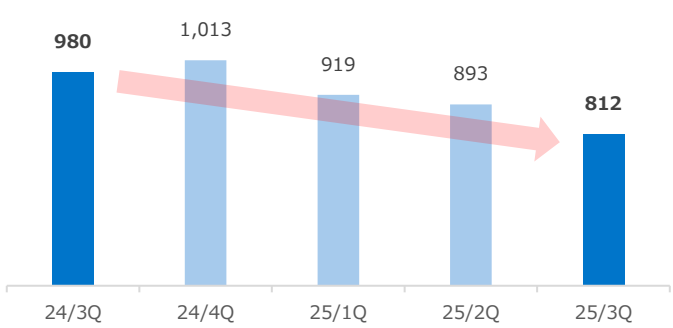


5

その他サービス売上

(単位：百万円)

3Q前年比▲17%
構成減による営業利益率2%改善



2025年度第3四半期 AGESTグループ連結貸借対照表

- 無形固定資産は、TFACT、SBOMなどのソフトウェア開発により増加
- 短期借入金は、一時的な運転資金調達により増加

(百万円)	24/12期(期末)	25/12期 3Q末	増減額(対前期末)
資産合計	6,087	6,900	812
流動資産	4,307	5,047	740
現金及び預金	1,944	2,533	588
固定資産	1,780	1,853	72
有形固定資産	482	480	△2
無形固定資産	791	923	131
のれん	400	339	△60
投資その他の資産	507	450	△56
負債合計	2,896	3,387	490
流動負債	2,762	3,269	506
短期借入金	600	1,300	700
固定負債	134	118	△16
純資産合計	3,191	3,513	322
株主資本	3,096	3,504	408
その他の包括利益累計額	94	8	△85
非支配株主持分	0	0	0
負債・純資産合計	6,087	6,900	812

AGEST を持続的に成長させる 5つのケイパビリティ

Next QA Engineer 豊富な高度エンジニア

ソフトウェアテストの知見が豊富なQAエンジニアをはじめ、開発の上流工程からのサービス展開を可能にする**次世代QAエンジニア**※1が多数在籍。また、サイバー攻撃などのセキュリティリスクから安全を確保するセキュリティエンジニア等、**ソフトウェア品質を軸に各領域のエンジニアを取り揃えている**。

Sales/Marketing 強力な営業、マーケティング機能

ソフトウェア品質に特化した**業界随一の強力な営業機能**に加え、**独自の営業ファネルによるマーケティング機能**の両輪で顧客獲得を推進。また、自社メディア「Scripts」の展開により、様々な業界の品質ニーズをキャッチし**顧客リーチの最大化を実現**

革新的な技術を実現する AI・オートメーション

グローバルマーケットで10年にわたりサービス展開してきた全方位型自動化ツール「**TestArchitect**」をもとに、革新的なAIテストツール「**TFACT (ディファクト)**」をローンチ。テスト設計からテスト実施、レポートまで、ワンストップでAIが効率化。従来の**ソフトウェアテスト市場の業界構造を転換する技術により業界のデファクトスタンダードを目指す**

Research Development 先端品質を追求する 研究、教育機関

先端品質技術の獲得に向け、研究機関である**AGEST Testing Lab.**において、国内ソフトウェアテストの第一人者である高橋寿一氏を所長とし産学連携等を推進。教育機関である**AGEST Academy**とも連携。またソフトウェアテストの世界的権威 Rex Black氏やソフトウェアテストの国際規格ISO29119※2を開発したStuart Reid博士等、**業界の権威とともに全エンジニアの技術的底上げを実施**

Global Expansion グローバルマーケットでの サービス展開

国内に限らず、欧米圏においてもQAソリューション、AI・オートメーションソリューション、ERPソリューションを展開。海外子会社のプロダクトの国内販売等、双方向での事業連携を強化。また、ベトナムに300名を超えるエンジニアを保有しており、**テスト自動化支援等のオフショア展開も実施**

※1 次世代QAエンジニアとは、当社グループ独自のエンジニアモデルで、開発とテストの知識両方を持ち合わせた開発～リリース後までトータルで品質向上の最適化を実現できる最上位のQAエンジニアの呼称となります。

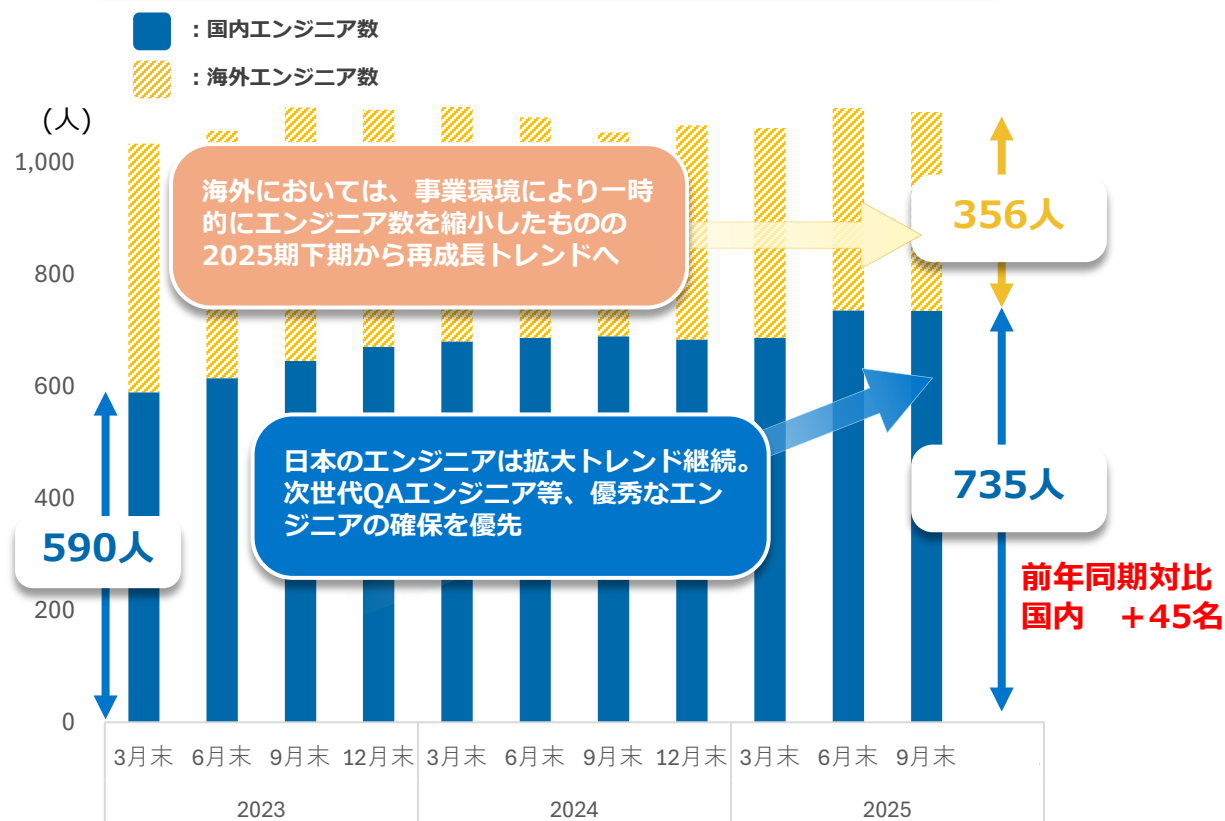
※2 ISO/IEC/IEEE 29119は、ソフトウェアテストの国際規格になります。

- 社内のエンジニアは継続的に拡大。特に国内の**次世代QAエンジニアが増加**
- 顧客単価についても安定成長を継続



国内のエンジニア数は増加

エンジニア数※1



顧客単価も安定成長

顧客単価※2

19 百万/社

2025年9月末時点データ

国内QAエンジニア単価の増加と案件規模の拡大、クロスセルの増加等により、1社あたりの顧客単価も安定的な成長傾向を継続

※ エンジニア数は、2025年9月末現在のAGESTグループが直接雇用しているエンジニア数を記載しております。また、2025年3月期に株式売却したMK Partnersのエンジニア数も除いて記載しております。

※ 平均顧客単価は、2025年9月末から直近12カ月間の売上を受注顧客数で除いたものを記載しております。

シフトレフト戦略は継続的に強化 さらなる品質向上・コスト削減を推進

シフトレフト※の効果

品質の向上

開発中に想定されるリスクを事前に洗い出し、テスト自体の精度が向上

コストの削減

早期のリスク低減の結果、全体的なコスト削減が可能

リリース遅延の防止

リリース前の不具合検知の増加や、条件別での機能不備などを防止し、リリーススケジュールを厳守

シフトレフトを実現する要件

変革への適応

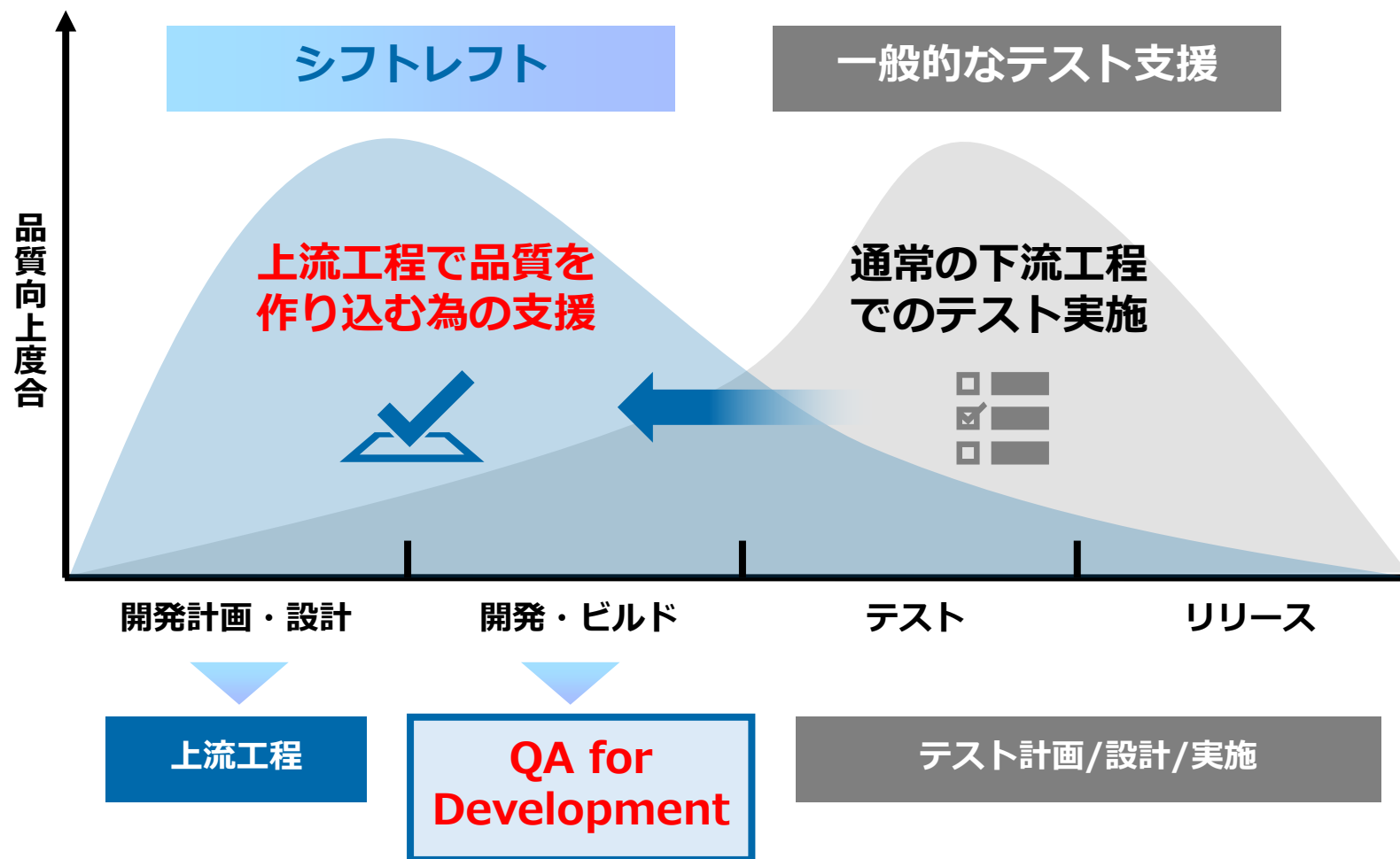
開発工程全体の見直しと、テスト・レビューを早期に取り入れる仕組み

専門人材の確保

上流工程でQA視点を取り入れるには、後の工程で発生し得る課題を予測し、対策を講じるための経験や知識が求められる

ナレッジ標準化

QAのナレッジをドキュメント化し組織全体で共有できる仕組みを整備



※ シフトレフトとは、当社グループ独自のソフトウェアテストモデル。大部分のテスト工程は開発の後に下流工程として実施されるが、当モデルではソフトウェア開発の効率性と生産性を重視し、開発の上流工程から開発と高度なQAスキルを持つ“次世代QAエンジニア”がコンサルティングすることで、手戻りの少ない高効率、高品質のソフトウェア開発をサポートする手法となります。

- 当社はテスト専門会社として、テスト自動化にも注力
- **AIテストツール「TFACT」と組み合わせることによるテスト工程の効率化・更なる収益拡大**

テスト自動化の歴史とAIテスト領域のロードマップ



LOGIGEARが開発したソフトウェアテスト自動化ツールで、**10年以上の運用実績**があり、**あらゆるデバイスのテスト自動化に対応可能**

AIの潮流を受け、更なる効率化・品質向上を求め、**革新的なAIテストツール「TFACT」**を開発。
2025年1月にβ版、9月に正式版をリリース

「TestArchitect」×「TFACT」を融合し、更なる技術革新への対応が可能に。2026年1月には、**SaaS版TFACTの販売**を予定し、**新たな収益モデルの確立**を狙う

TA for Series



テストケース作成から、自動実行、結果分析・レポート作成、テストケース管理までワンストップでAIがアシスト



AI対応領域の拡大により、あらゆるデバイスでのAIテストが可能に

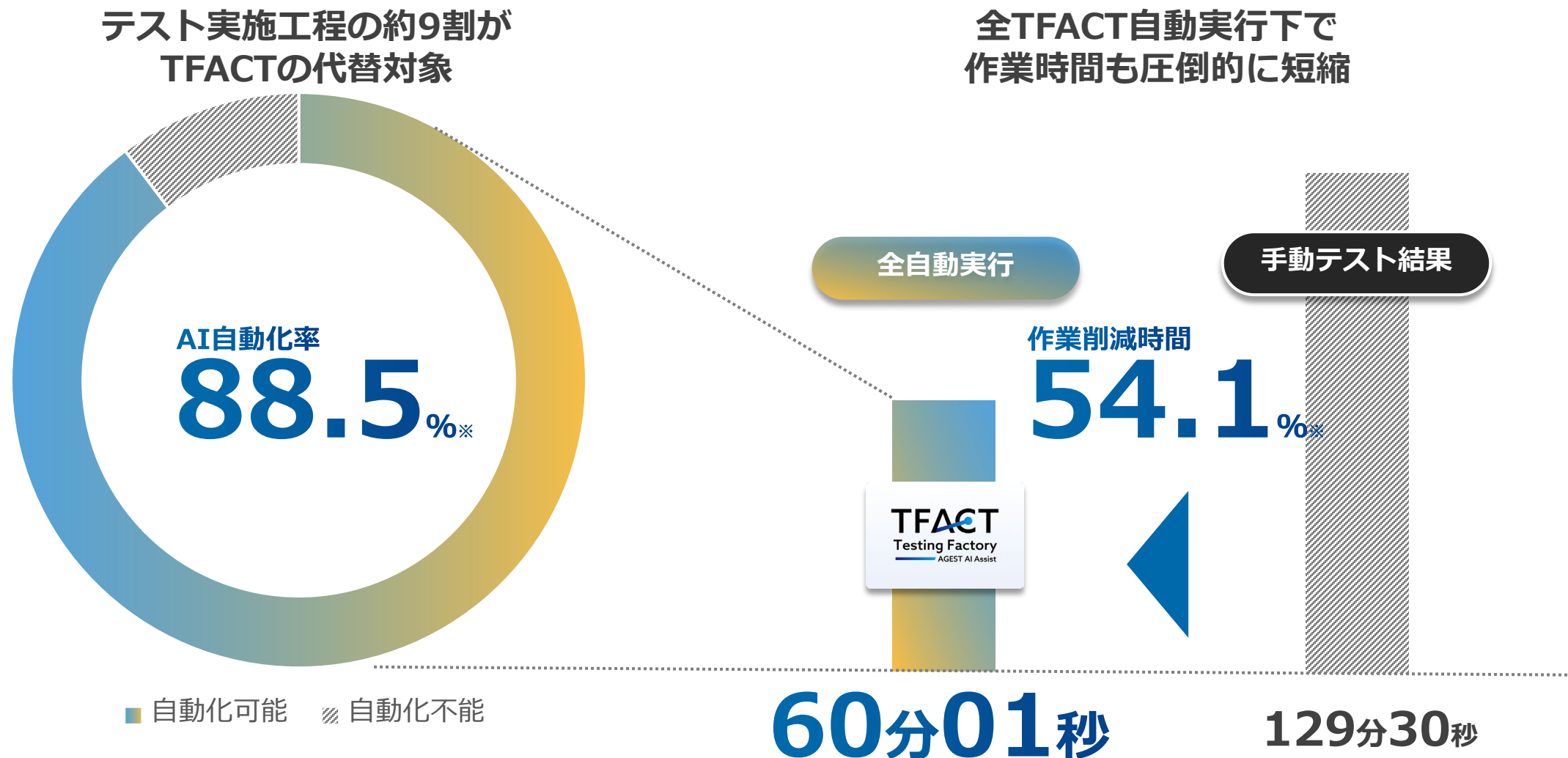


テスト工数の更なる削減と圧倒的な市場提供スピード



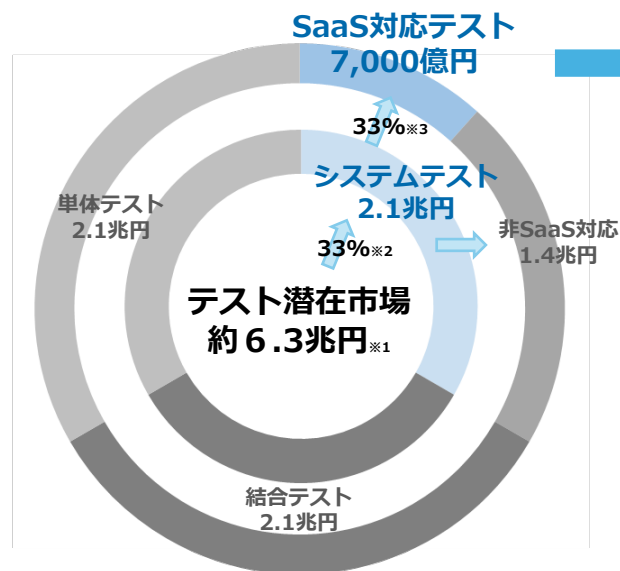
膨大なテストデータの獲得によるテストの高精度化及び品質向上

- TFACTは25年1月のβ版リリースから、ツール利用の問い合わせが**300件超え**
- 25年9月からの正式リリースに伴い、テスト受注における**AGEST社内での活用は進行中**
- 以下、サンプルであるが、**圧倒的なTFACTによるカバー範囲、自動実行、作業時間短縮結果**を実現



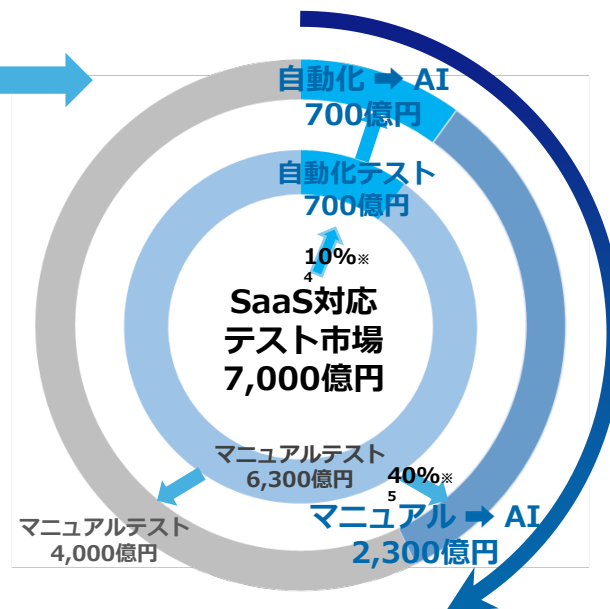
- TFACTの潜在市場は、**3,000億円と推計**
- さらなるテスト対応領域拡大等の進化を続け、マーケットは拡大傾向

既存のテスト領域市場



システムテスト2兆円の市場に対し、Web・アプリテストや一部業務システム等、UIでの実行が可能なSaaS対応テスト領域が7,000億円と推計

AIテスト領域市場



SaaS対応テストにおいて自動化テストの市場は約10%(700億円)。この市場はそのままAIテストへ転換することが可能になります。残りの6,300億円は、自動化に向けた「導入コスト」「専門性」「スクリプト作成時間」「仕様書等の入力ドキュメント不足」等の理由でマニュアルテストに留まっている状態。TFACTは各課題の解決を実現することで、6,300億円の約40%(2,300億円)の市場をAIテストへ転換することが可能になります。

TFACT
Testing Factory
AGEST AI Assist

現状機能による**TFACTの潜在市場は3,000億円と推計**。
マニュアルテストとAIテストを併用したサービス展開から市場浸透を進め、ツール販売等により、大幅な拡大を図り、市場のデファクトスタンダードを狙う。

※1 矢野経済研究所「2024 国内企業のIT投資実態と予測」及び独立行政法人情報処理推進機構「ソフトウェア開発分析データ集2022」からテスト潜在市場予測数値を算出しております。

※2 システムテスト、単体テスト、結合テストの規模については、一般的な開発工程から、それぞれ約1/3の市場規模と推計し算出しております。

※3 SaaS対応テストの市場規模については、webシステム、業務システム等のシステム分類をAGEST社内の受注実績から約1/3として算出しております。

※4 自動化テストの市場規模については、AGEST社内の受注実績から約10%として算出しております。

※5 マニュアルテストからAIテストに転換される市場規模については、各自動化に向けた課題が、TFACTにより解決される割合を当社推計で約40%として算出しております。

AIプロダクトによる
新たなストック型の売上モデルへ

KPIs		TFACT Testing Factory — AGEST AI Assist	
導入単価 (予定)		・ AI従量課金 ^{※1、※2} ・ テスト管理ツールライセンスフィー (SaaS版のみ)	
導入数		新たな顧客層/既存顧客がすべて対象	

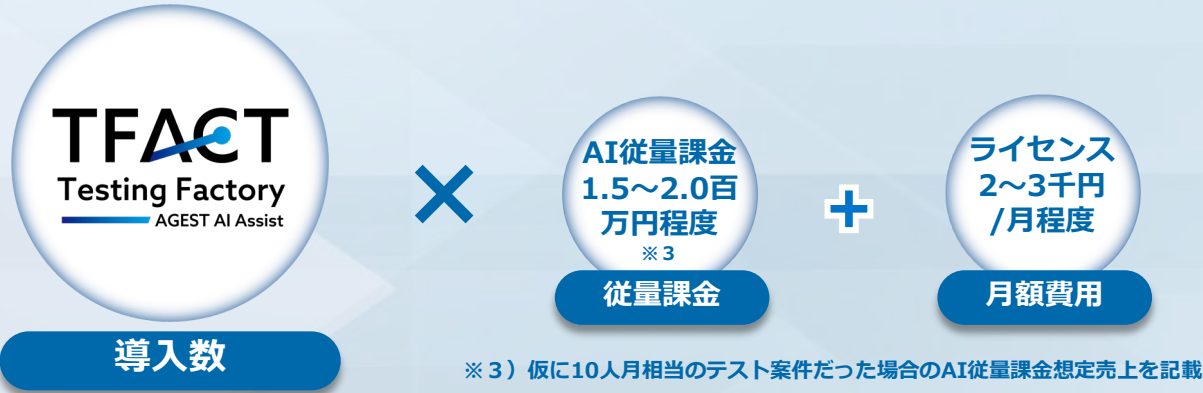
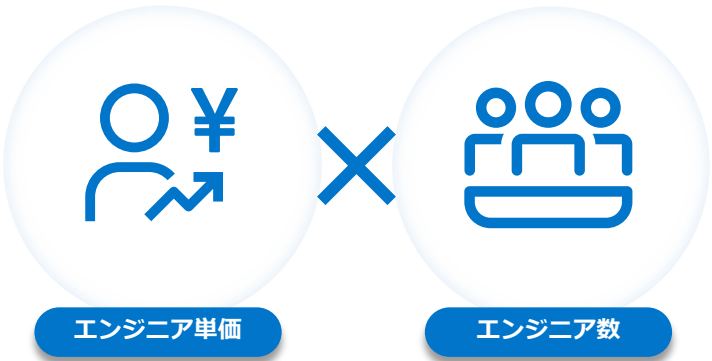
※1) テストステップ数(細分化されたテスト項目数)での課金を行う。
※2) 一般的な10人月相当のテスト案件で1,500,000~2,000,000円程度



現時点のAI/オートメーションのビジネスモデル

既存の自動化ソリューション

現状は、エンジニア数×エンジニア単価
となっているが、TFACTの導入・浸透により、
ストック型の売上モデルへ移行していく

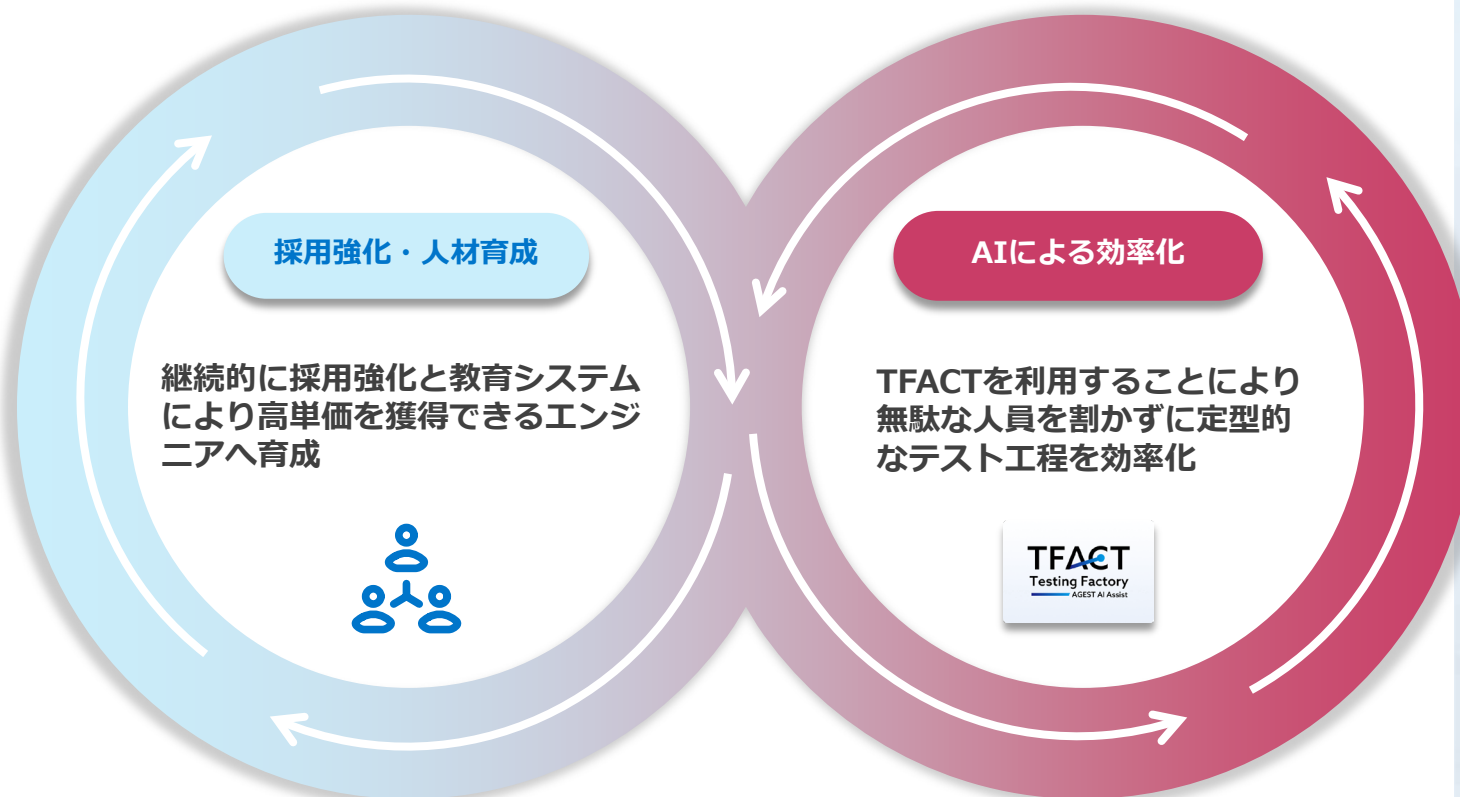


※3) 仮に10人月相当のテスト案件だった場合のAI従量課金想定売上を記載

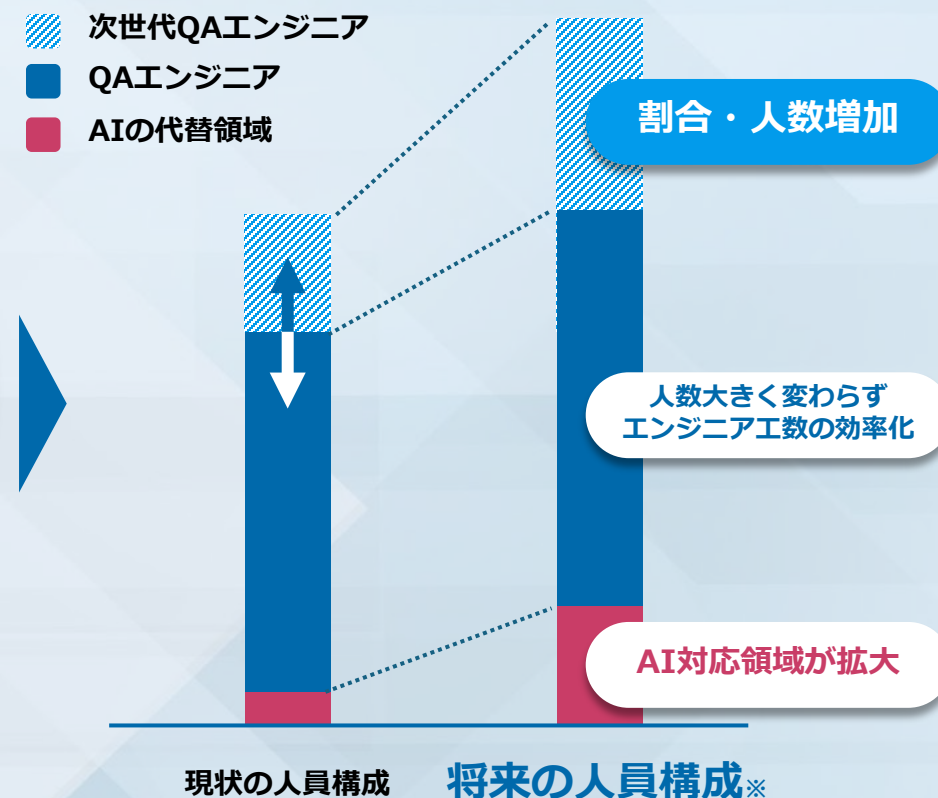
TFACTの投入により、3,000億円の潜在市場を掘り
起こし、業界のデファクトスタンダードを確立する

- 優秀な人材の確保と育成は当社の重要任務
- さらにTFACTの活用により、**エンジニア構成適正化やテスト対応領域拡大等の進化**を続けていく

採用・育成・AIによる効率化の 好循環サイクルを構築



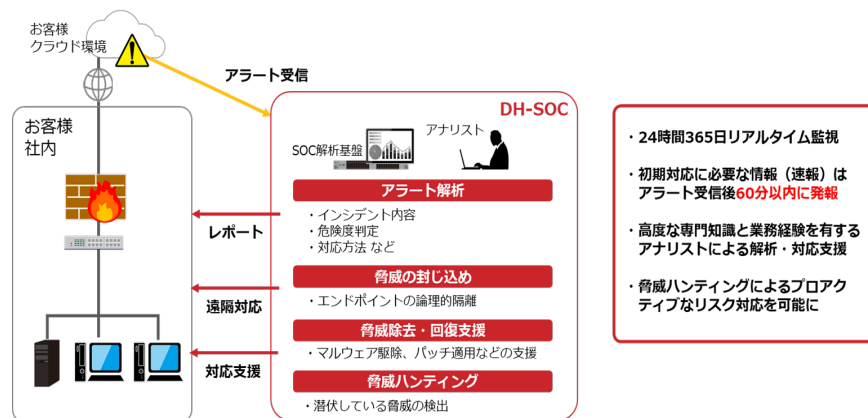
高単価人材の増加 既存人材の割合低下を狙う



- サイバーセキュリティソリューション事業は、SOC事業及び脆弱性診断事業が現在の主要サービス
- SOC事業は国内トップクラスの監視台数を有し、脆弱性診断は経済産業省策定の情報セキュリティサービス基準に準拠した信頼性の高いサービスを提供
- QAソリューションと融合させ、シフトライト戦略の推進を強化

SOC事業（DH-MDR）※1

24/365のエンドポイント監視体制を構築し、インシデントアラート受信から60分以内に初動対応を実施。また、端末の隔離、脅威除去、再発防止支援まで一貫してサポートし、**ランサムウェア等から企業を守る最後の砦**となっている。



基本対応メニュー

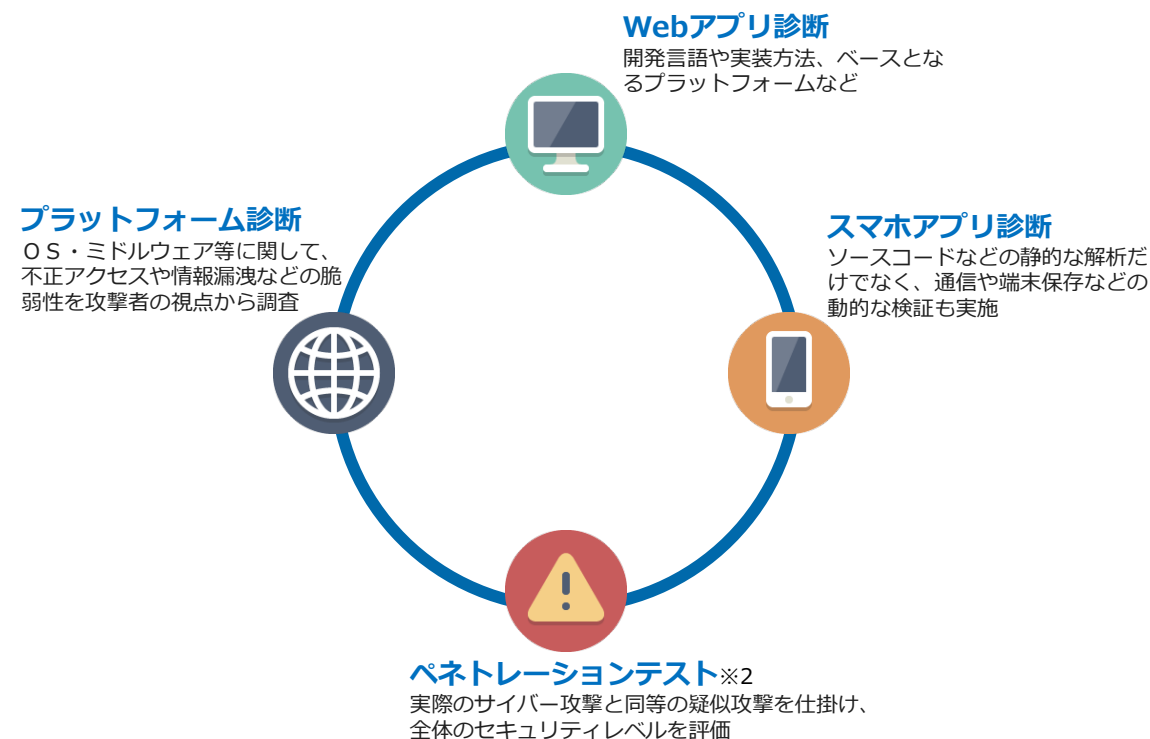
アラート解析	脅威の封じ込め
脅威除去支援	回復支援
脅威ハンティング	ITハイジーン
デジタルリスクの監視	月次レポート

対応EDR



脆弱性診断

セキュリティ診断は、テストとの親和性も高く、システムの潜在的な脆弱性の追求と原因調査を実施。現状の脅威とリスクに対する備えをレポート



※1 EDR監視サービスとは、ネットワークに接続されているPC、サーバー、スマートフォン等のエンドポイントを監視して、不審な挙動を検知し脅威を取り除くためのセキュリティサービスです。

※2 ペネトレーションテストとは、実際のサイバー攻撃と同等の疑似攻撃を仕掛けることで、システム全体のセキュリティレベルを評価するサービスです。

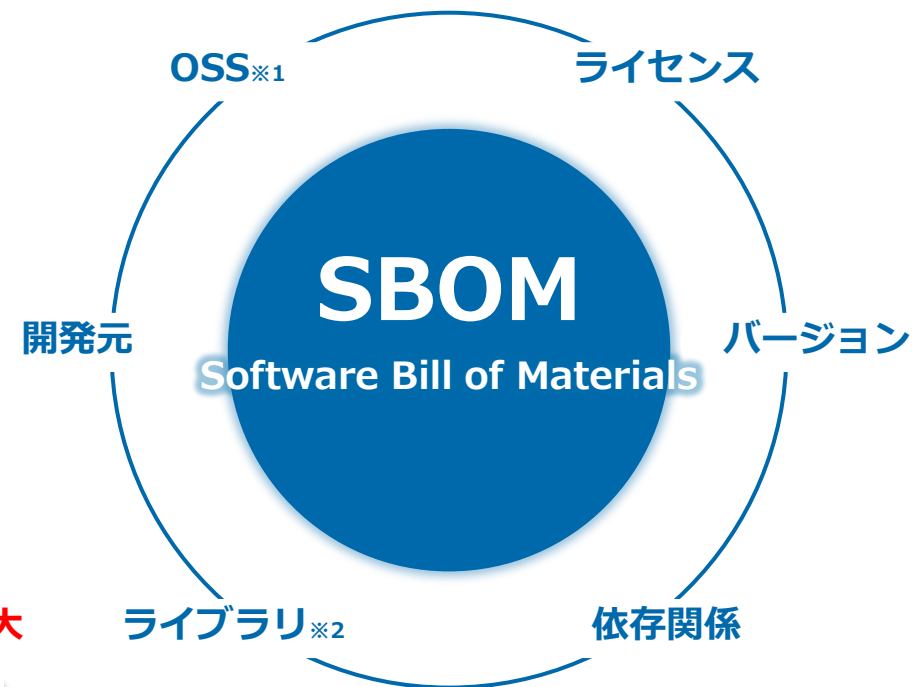
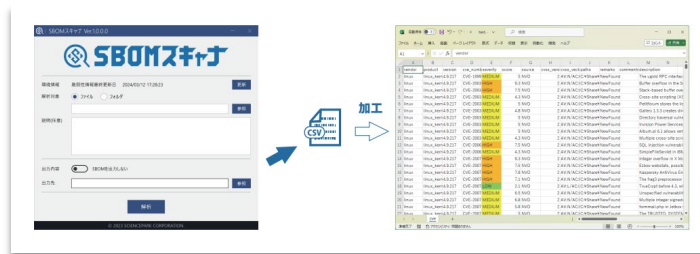
- **SBOM管理サービスを導入することにより、網羅的・継続的にセキュリティ管理が可能に**
- **米国、EUなどでのSBOM導入加速・規制強化に追随し、日本も対策が求められる**
- **2026年1月にWebシステム等に向けたSBOM管理サービスをリリース予定**

SBOMとは

SBOM (Software Bill of Materials) とは、ソフトウェアを構成する部品（コンポーネント）やその依存関係をリスト化したものです。これは、ソフトウェアのセキュリティリスクを管理し、脆弱性対応やライセンス管理を効率化するために重要です。

AGEST が取り組む SBOM脆弱性定期レポートサービス

AGESTは、IoT機器向けのSBOM管理サービスをいち早く展開。
今後は、IoT機器に加え、Webシステム、サーバ、業務システムなどの領域にも拡大



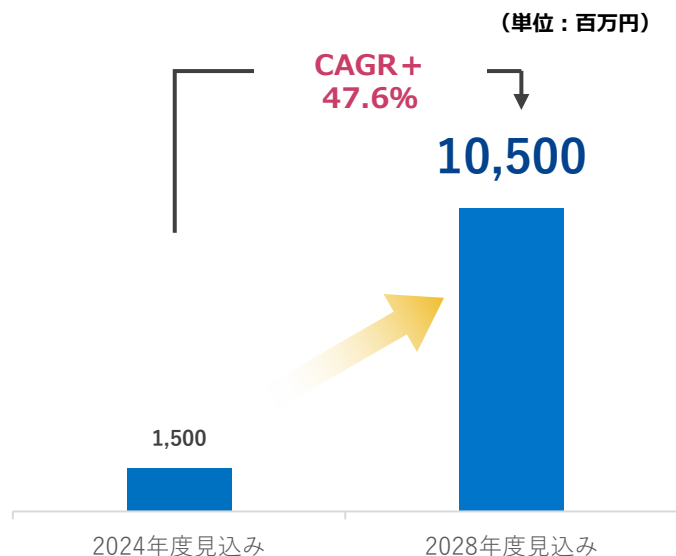
**純国産のSBOM管理サービスとして
業界におけるトップシェアを目指す**

※1 OSSとは、オープンソースソフトウェアの略語で、利用や改変、再配布を行うことが可能なソフトウェアのことをいいます。

※2 ライブラリとは、特定の目的のために再利用可能なプログラムの部品や資料などを集めたものを指します。

- SBOM管理市場は海外が先行している
- 国内市場も急成長していく見込み

SBOM/脆弱性管理※の市場規模



SBOM・脆弱性管理についての市場規模は継続的に増加傾向にあります。特に継続的に安全性の確認が行われるSBOM管理の重要性は米国、EUなどにおいて、先駆けて主張されており、**日本における重要性も今後、加速度的に増していきます。**

海外市場：政府調達要件/日本市場：今後追従するものと想定



米国

政府議連のソフトウェアに対してSBOM提供を求める大統領令に基づき米国商務省の電気通信情報局（NTIA）がSBOMをまとめる



EU

EUサイバーレジリエンス法（CRA）の要旨にはSBOM作成が求められるネットワークに接続するすべてのデジタル製品が対象、違反時は高額な罰金（2025年後半施行予定）



日本

サプライチェーン攻撃の増加などサイバー攻撃の多発で需要が高まり、市場規模も拡大の予測
各省や業界団体などからのSBOMに関する言及は増加

経済産業省

SBOM実証事業および利用ガイドラインの公開/IoT製品に対するセキュリティ適合性評価制度（JISEC認証制度）

総務省

通信分野におけるSBOM実証事業

金融庁

金融機関向けサイバーセキュリティ対策

官公庁における対策

自動車業界

SBOM利用ガイド作成（J-Auto-ISAC）

金融（クレジット）

PCI DSSv4.0の要件にSBOM関連の要件が追加

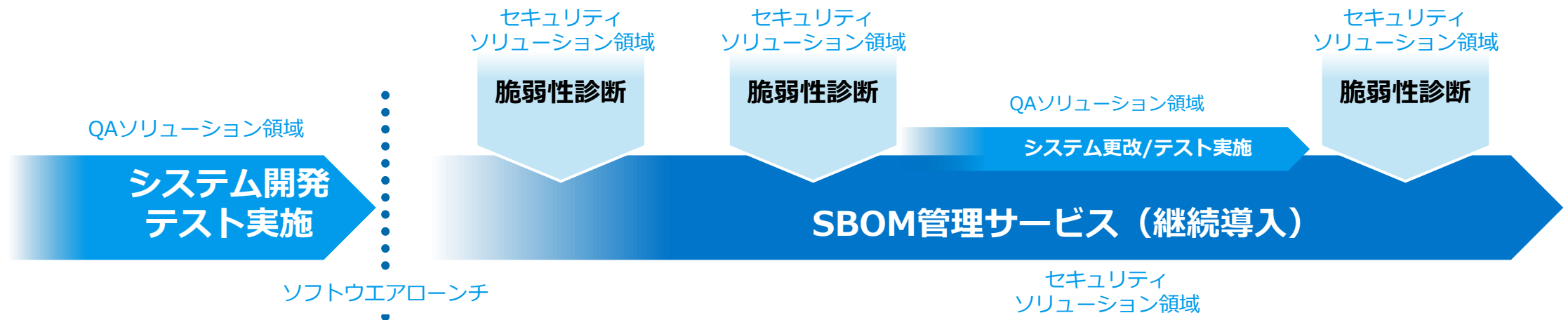
業界における対策

※1 富士キメラ総研「ネットワークセキュリティビジネス調査総覧 市場編/ベンダー戦略編」

※2 サイバーレジリエンス法とは、EU域内で販売されるネットワーク接続製品に厳しいサイバーセキュリティ要件を課し、製品のライフサイクル全体を通じてセキュリティを確保することを製造者に義務付ける規則となります。

- SBOM管理サービスと従来のテスト及び脆弱性診断を組み合わせることにより、**網羅的かつ継続的にサイバーセキュリティ対応が出来るAGEST独自のサービス展開が可能に**

システム開発とSBOM管理/脆弱性診断の関係

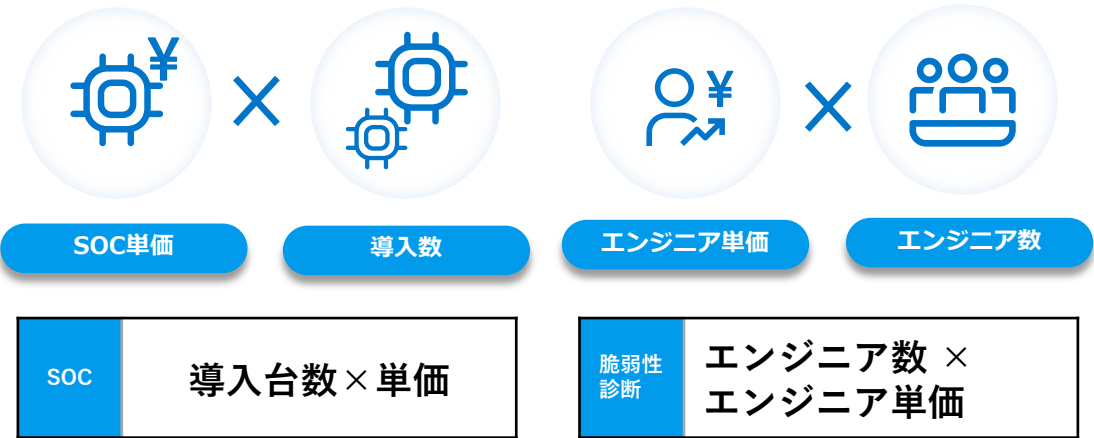


脆弱性診断が「システムに潜む弱点を発見するテスト」であるのに対し、SBOM管理は「ソフトウェアの部品表を基にした」脆弱性管理の効率化に役立ちます。SBOMを導入するとソフトウェアのコンポーネント構成が可視化されるため、新たな脆弱性が発見された際に影響範囲の特定や優先順位付けが迅速に行え、効果的な脆弱性対策が可能になります。**脆弱性診断とSBOMは相互補完的な関係にあり、両方を活用することでより高度で包括的なセキュリティ対策を実現します。**

現時点のセキュリティのビジネスモデル

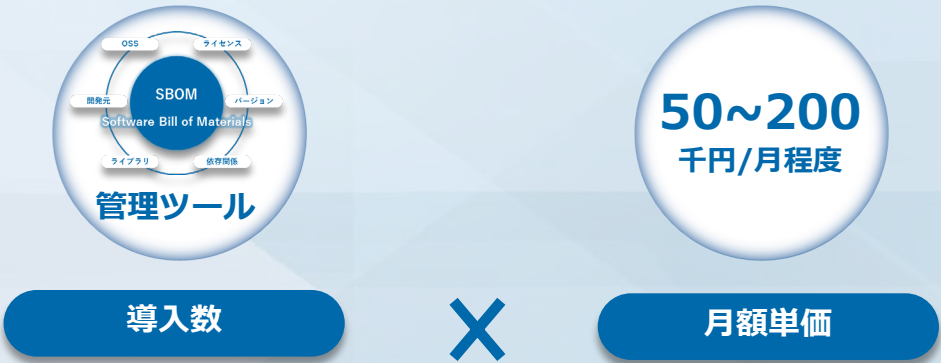
既存のセキュリティソリューション

現状は、SOC導入数×導入単価+エンジニア単価×エンジニア数となっているが、SBOM管理の導入・浸透により、ストック型の売上モデルも拡大



SBOM管理ツールによる
新たなストック型の売上モデルへ

KPIs	
月額単価 (予定)	50~200千円程度
導入数	新たな顧客層/既存顧客がすべて対象

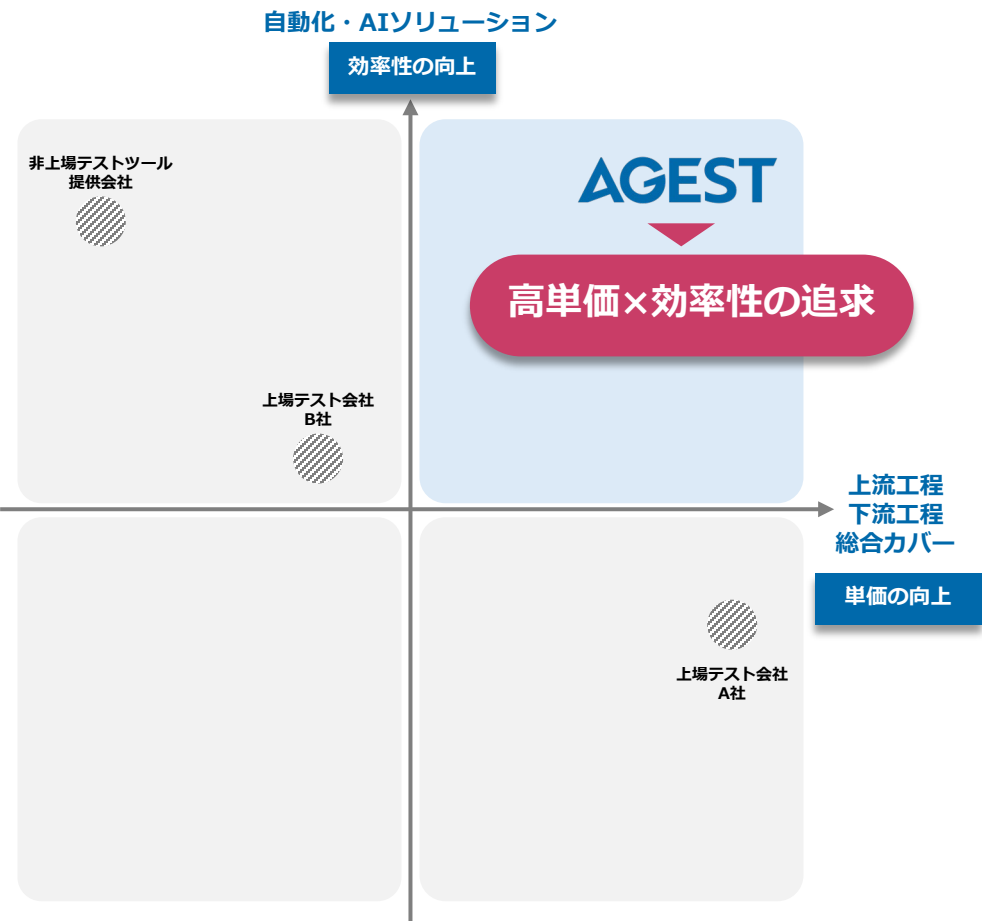


QAや脆弱性診断ユーザーへのサービス提供から始め、自動車、医療、金融等のSBOM利用の標準化が進んでいる業界へアプローチ。今後拡大するニーズを捉え、SBOM管理のNo.1事業者を目指す

- 当社は**自動化・AIソリューション領域×ソフトウェア開発の総合カバー**を行う唯一無二の企業
- 今後も技術力・高品質の追求による**単価の向上**、自動化・AI技術の追求による**効率性の向上**を狙う

ポジショニングマップ※

比較表※



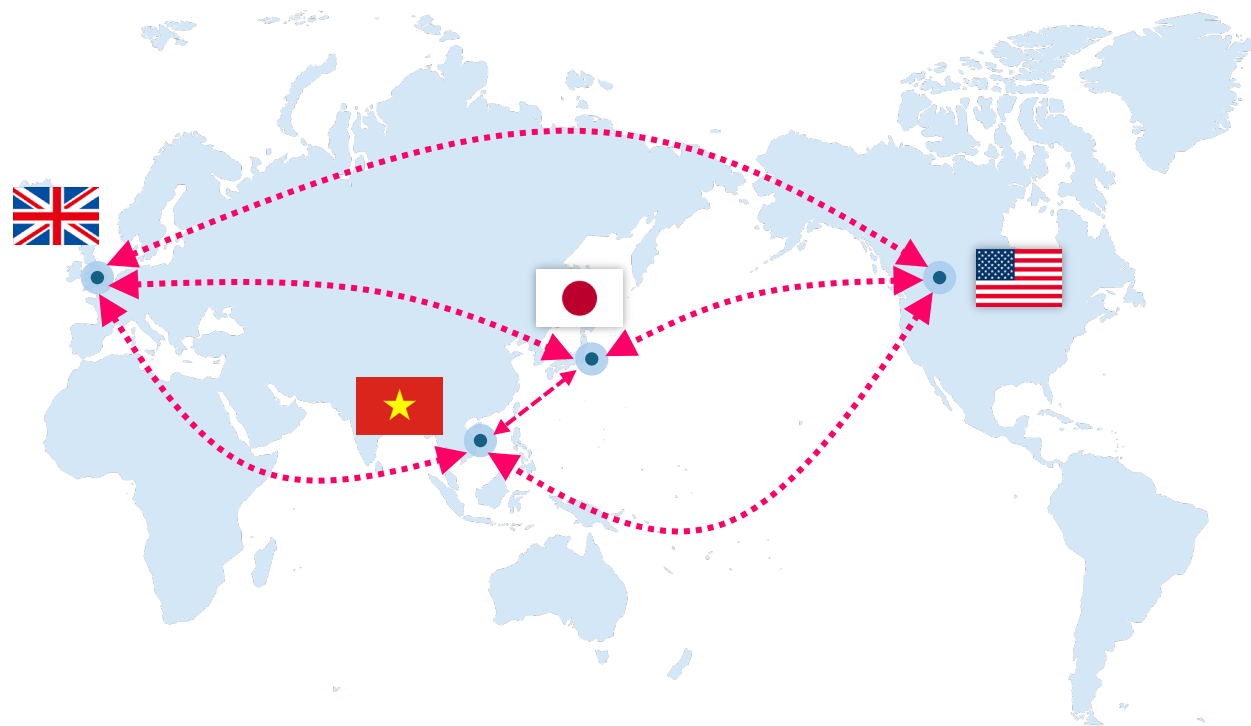
AGESTは、**自動化/AIソリューションの追求による効率化、開発工程の総合的カバー、セキュリティサービス展開、グローバル展開**等により競合との差別化を実現

各企業	自動化 AIソリューション	開発工程の 総合的な カバー	セキュリティ サービス展開 SBOM等	グローバル 展開
AGEST	○	○	○	○
上場テスト 専門会社 各社	△	○	△	△
非上場テスト ツール 提供会社	○	×	×	○

※テスト会社及びテストツール会社のポジショニングや特徴等の一般論について、当社の分析を示したイメージ図であり、客観的な数値・データ等に依拠するものではありません。

□ 各社のオーガニック成長とともに**グローバル連携により更なる拡大と効率化を図る**

各国のPRODUCT、デリバリー機能、販売体制を有機的に連携
特に、**国内PRODUCT「TFACT」「SBOM」のグローバル展開に注力**



AGEST



QA AI Sec. ERP 他

- ・ 日本国内マーケットへのサービス提供
- ・ 各ソリューションのデリバリー
- ・ QA、AI、Sec.、ERPPRODUCTの開発



LogiGear

QA AI Sec. ERP 他

- ・ USマーケットへのサービス提供
- ・ AI・オートメーションPRODUCTの開発
- ・ TFACT/SBOMの販売



QA AI Sec. ERP 他

- ・ Euroマーケットへのサービス提供
- ・ ERPデリバリー
- ・ ERP自社PRODUCT開発
- ・ TFACT/SBOMの販売



AGEST
AGEST Vietnam Co., Ltd.

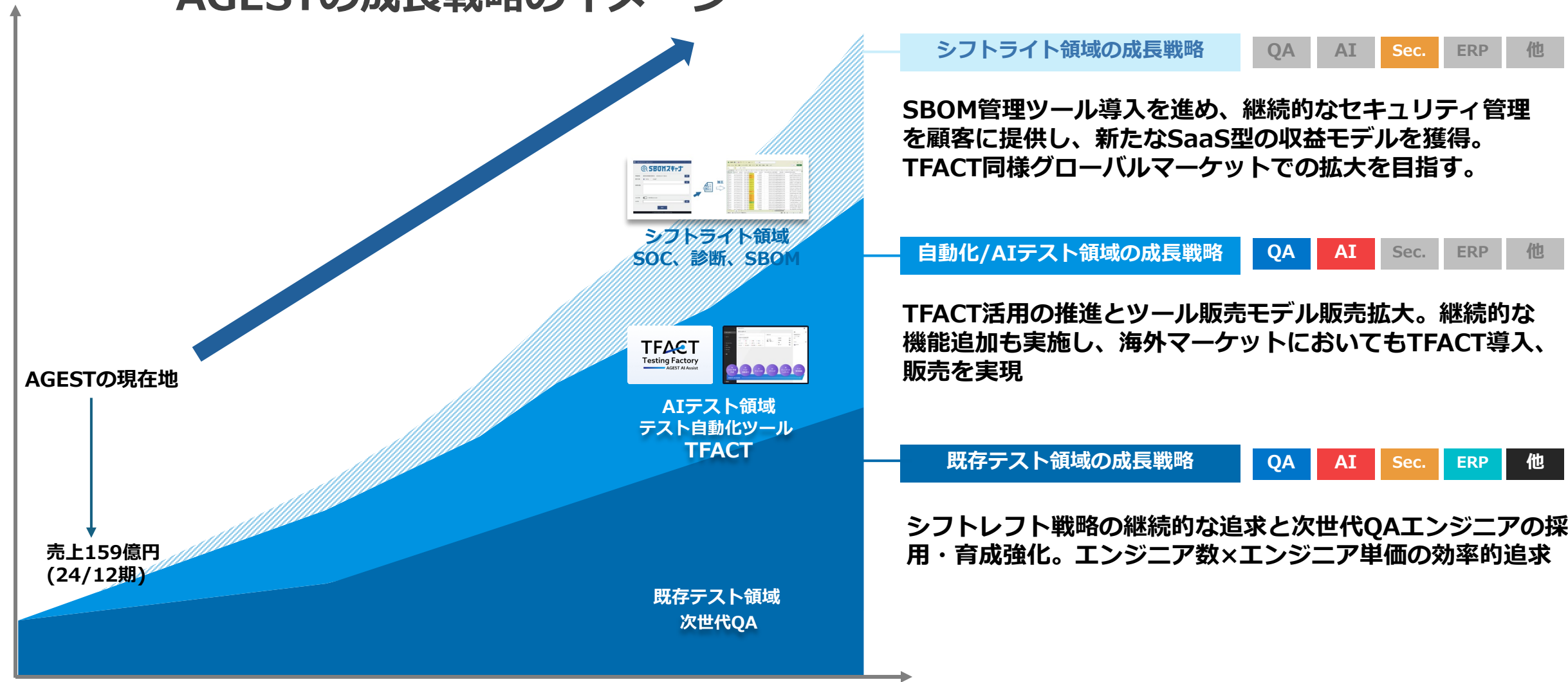
QA AI Sec. ERP 他

- ・ ベトナムオフショア (QA、AI、その他デリバリー)
- ・ ベトナムマーケットへのサービス提供
- ・ TFACT/SBOMの販売

成長戦略の全体像

- 今後は、既存テスト領域に加え、TFACTによる自動化・AIテスト領域、シフトライト領域に注力
- 国内のみならずグローバル展開により更なる成長を実現

AGESTの成長戦略のイメージ



AGEST

■お問い合わせ先

株式会社AGEST IR広報室

電話：03-6821-1753

Email：ml-ir@agest.co.jp

HP：https://agest.co.jp/

本資料は当社（株式会社AGEST）に関する情報提供を目的としたものであり、投資判断の参考となる情報の提供及び投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料は当社が信頼に足ると思われる各種情報に基づいて作成しておりますが、当社はその正確性及び完全性を保証するものではありません。

本資料に記載のAGESTグループ連結は、決算期等の連結決算の前提が株式会社デジタルハーツホールディングスのものとは異なる場合があります、また、監査法人によるレビューを受けておりません。

本資料の内容は、作成時における当社の見解または評価を示したものであり、市場環境の変化等により予告なく変更される場合があります。

本資料は当社の著作物であり、著作権法により保護されております。当社の事前の承諾なく、本資料の全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

各社の会社名、サービス・製品名は各社の商標または登録商標です。